

▶18日 木曜

創世記



9:18 箱舟から出て来たノアの息子たちは、セム、ハム、ヤフェテであった。ハムはカナン之父である。

9:19 この三人がノアの息子たちで、彼らから全世界の民が分かれ出た。

9:20 さて、ノアは農夫となり、ぶどう畑を作り始めた。

9:21 彼はぶどう酒を飲んで酔い、自分の天幕の中で裸になった。

9:22 カナンの父ハムは、父の裸を見て、外にいた二人の兄弟に告げた。

9:23 それで、セムとヤフェテは上着を取って、自分たち二人の肩に掛け、うしろ向きに歩いて行って、父の裸をおおった。彼らは顔を背け、父の裸は見なかった。

9:24 ノアは酔いからさめ、末の息子が自分にしたことを知った。

9:25 彼は言った。「カナンはのろわれよ。兄たちの、しもべのしもべとなるように。」

9:26 また言った。「ほむべきかな、セムの神、【主】。カナンは彼らのしもべとなるように。」

9:27 神がヤフェテを広げ、彼がセムの天幕に住むようになれ。カナンは彼らのしもべとなるように。」

9:28 ノアは大洪水の後、三百五十年生きた。

9:29 ノアの全生涯は九百五十年であった。こうして彼は死んだ。

セム、ハム、ヤフェテをそれぞれアジア、アフリカ、ヨーロッパの各人種の始祖とする人もいますが、それほど単純なものではありません。またノアののろいによってハムの子孫は繁栄しなかったという話を聞くことがあるかも知れませんが、根拠のないこと

です。アフリカ大陸よりも早くヨーロッパ大陸に文明が栄えたという根拠はないのです。

むしろノアの酔っての失態と、ノアの自分中心な宣言に注目しなければなりません。ノアといえども、罪人なのです。またハムは父親の恥をひけらかし、その関係にひびが入っていることがわかります。後の世代や社会の秩序にとって、父親の権威は基本的な価値観となるものです。洪水でリニューアルされたように見える世界も、結局は人の心根が変わらない限りは、問題と争いが続くのです。

父を敬うことは（「両親を敬え」とありますから、当然母も）、父のためだけではなく、自分とその子や孫のためでもあります。その第一歩は多くの場合、両親の失敗と恥を赦して覆うことから始まるのです。

また父（母も）は子どもの前でも謙遜で正直でありたいものです。尊敬されてないと感じて、怒ったり強制したりせずに、共に主の前に出て、自分が謙遜に成長する姿勢を見せることで祝福されるのではないのでしょうか。

十字架の救いによって新しく生まれた者には聖霊が働いてくださいます。その聖霊様こそが心根を変える力ですから、感謝しつつ聖霊に従いましょう。家族の回復、または部分的な癒し、さらなる祝福のために聖霊様に聞き従いましょう。そして、社会のため、主の栄光のために用いられる家系となりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

